

竹本容器について

竹本容器について – 当社の使命 –

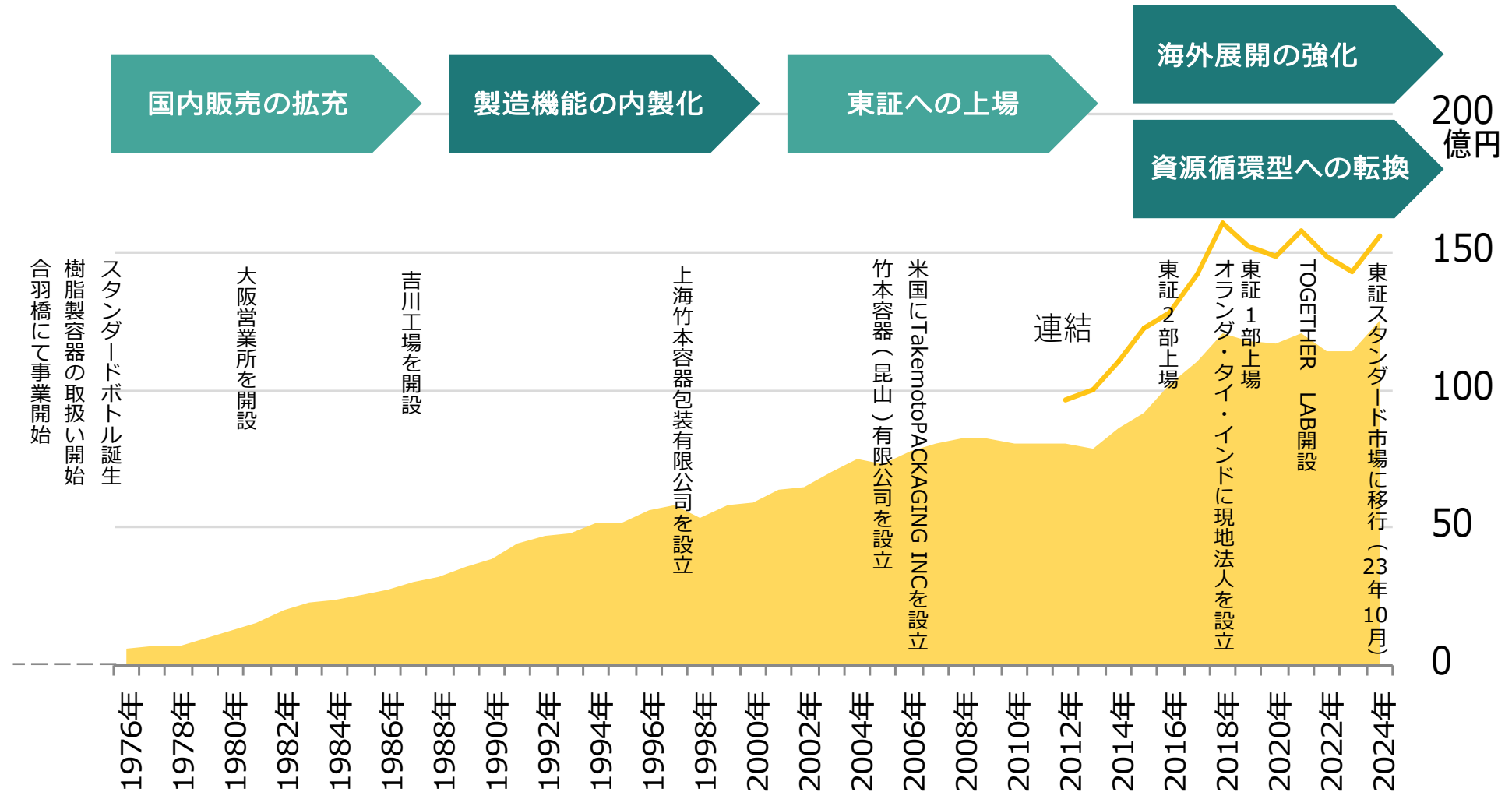
生活上必要不可欠な容器 – カタチ（容）あるウツワ（器） –
をつうじて、お客様の商品である内容物の価値を安全に包み、
さらにその価値と個性化を高め「世界の器文化に貢献」する



（写真は合羽橋ショールーム）

竹本容器について

75年の歴史を経て、「国内での顧客基盤」「製造機能」「上場による財務基盤」を築き上げた竹本容器は、「海外展開の強化」「資源循環型への転換」という段階にあると位置付けられる



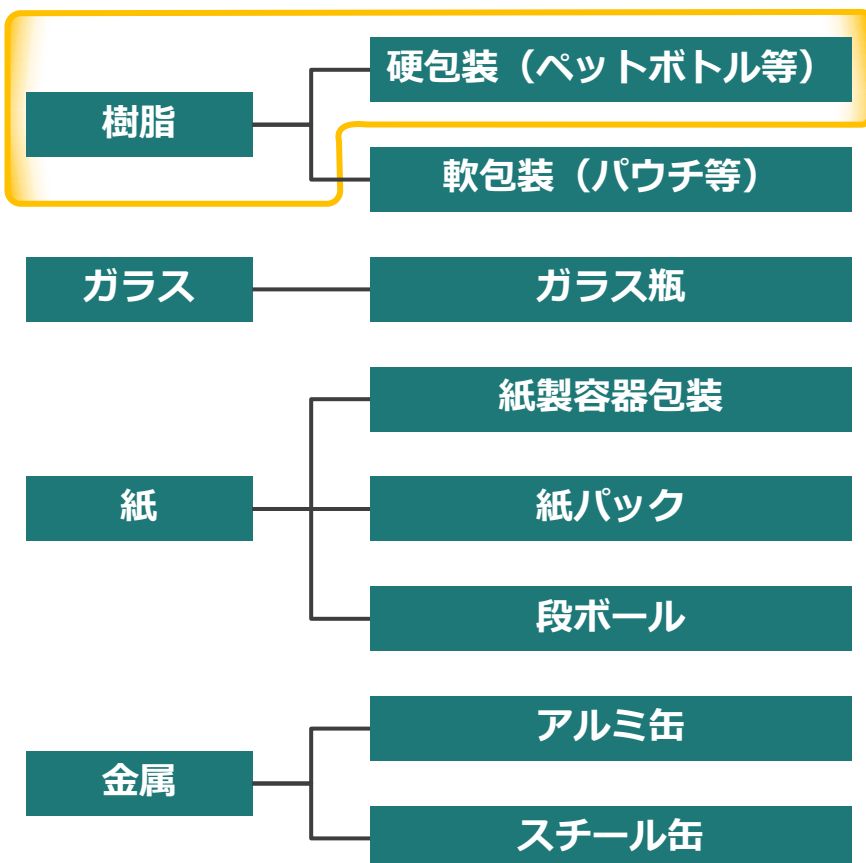
注）売上高は単体数値、2012年から連結数値も表記

竹本容器について – 容器の種類 –

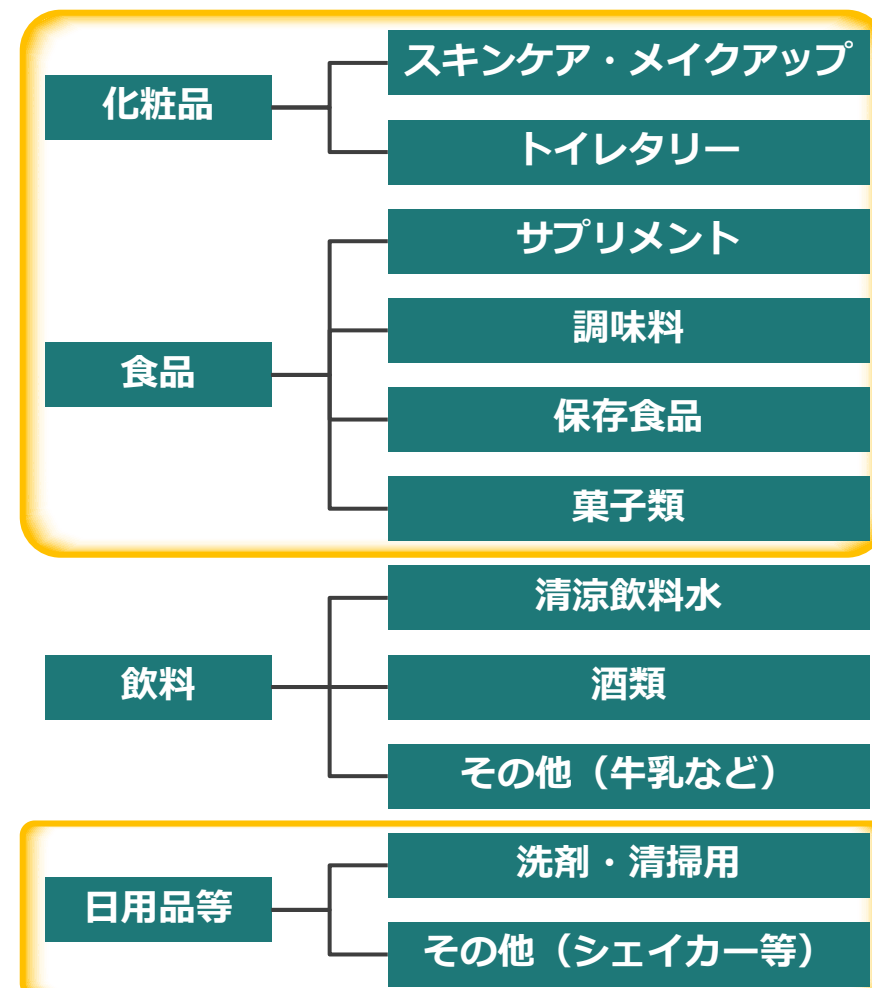
- 当社は樹脂容器を中心に、用途を幅広く手掛けている
- 特に化粧品用が多く、食品用、日用品用などが続く

竹本容器が主に手掛ける範囲

素材による分類

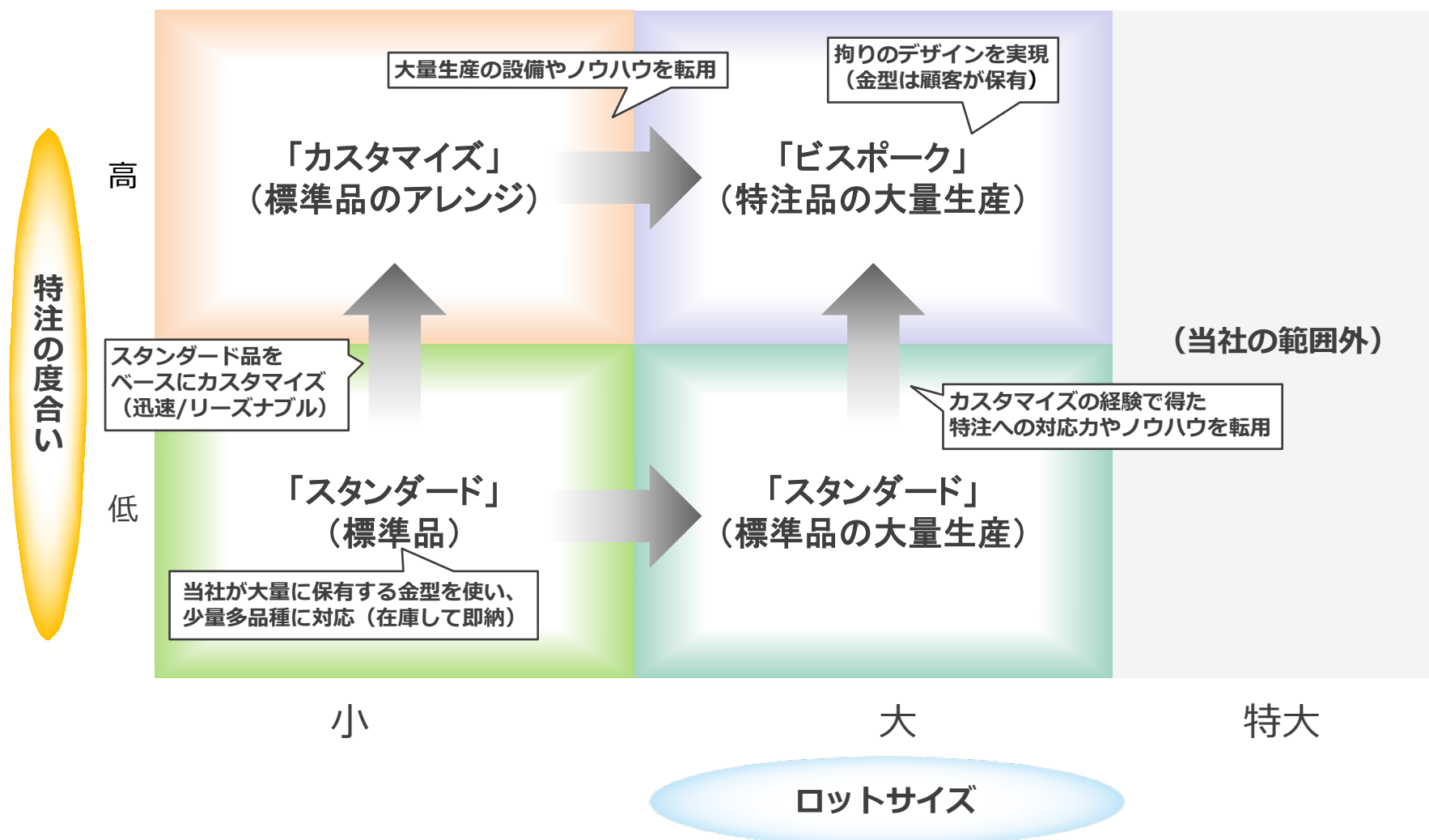


用途による分類



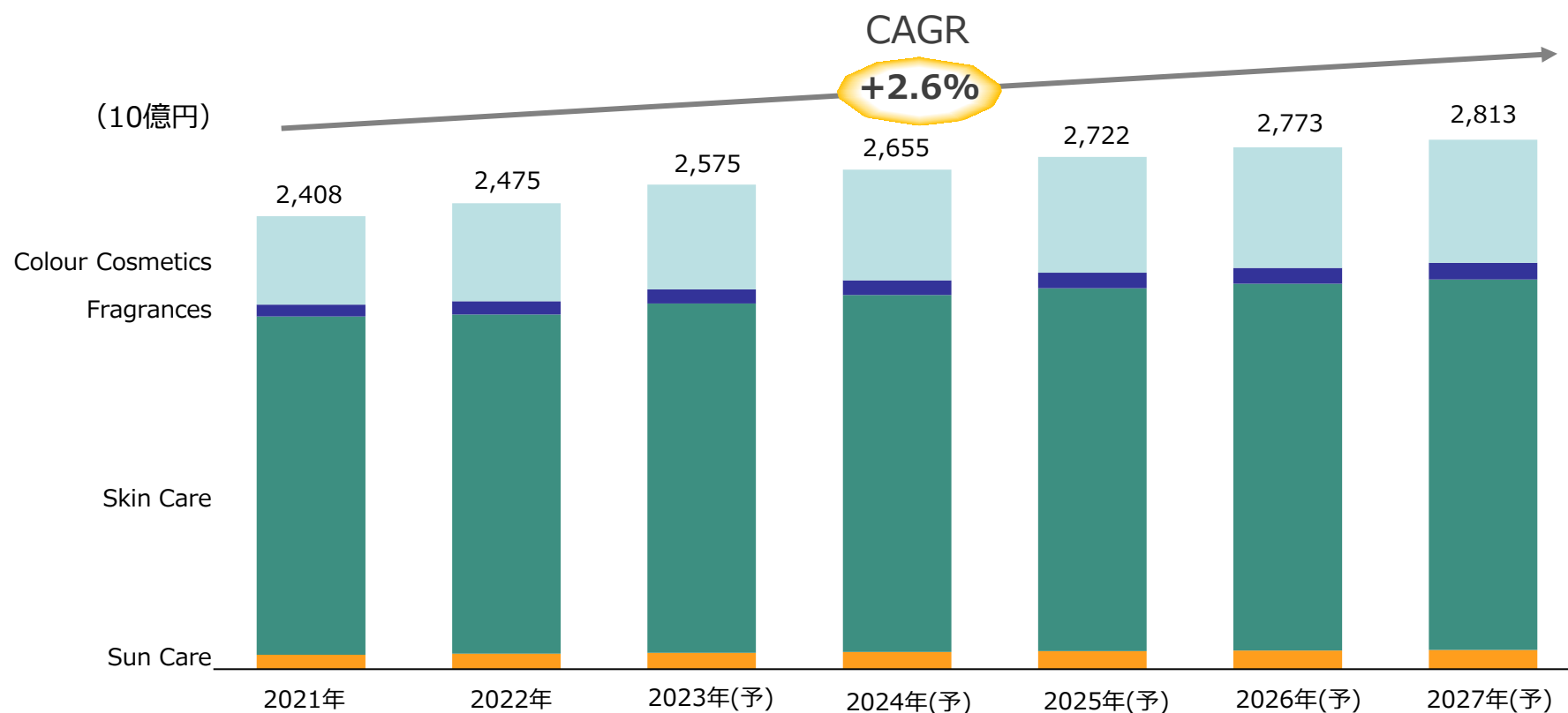
竹本容器について – 樹脂容器のセグメント –

- 樹脂容器は「ロットサイズ」と「特注の度合い」で分類できる
- 当社は「スタンダード」を起点に、4つのセグメントに対応



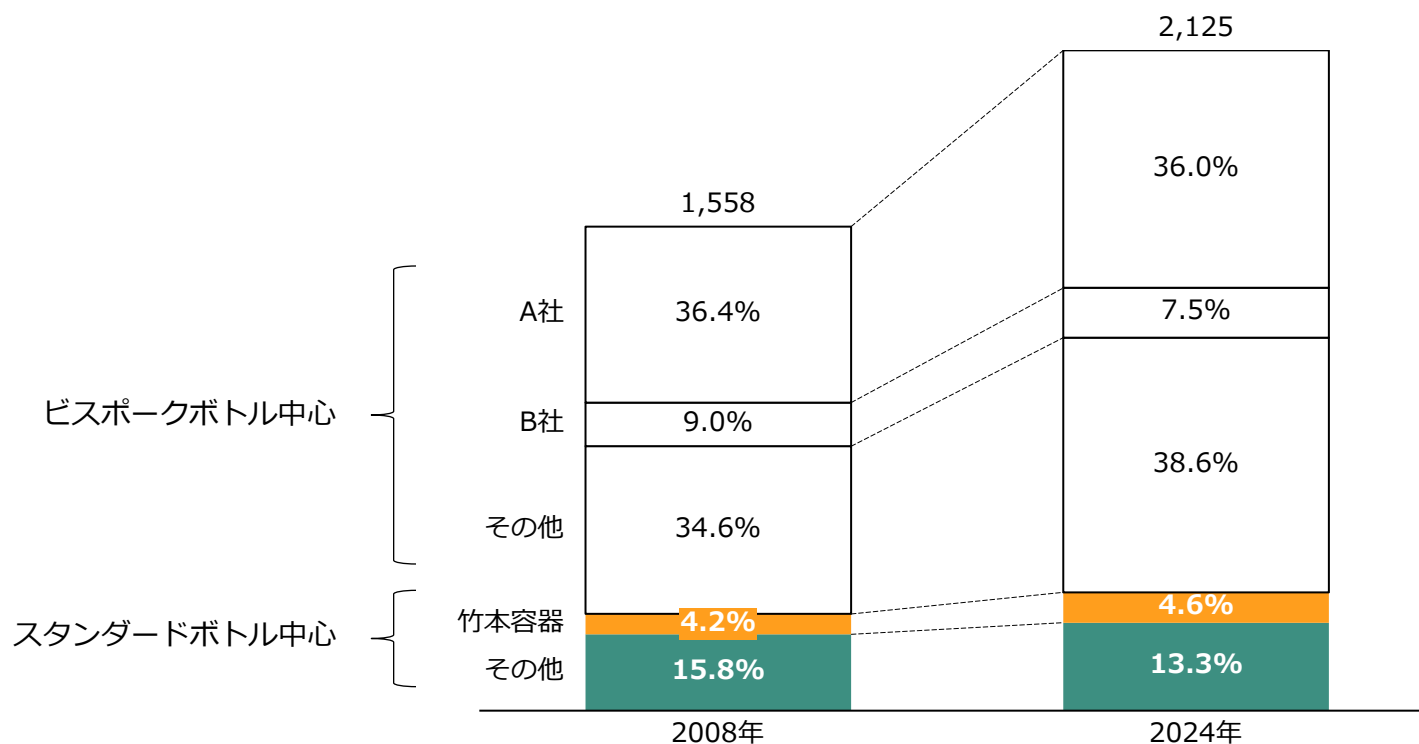
竹本容器について – 化粧品の市場規模 –

- 日本の化粧品市場は2021年以降、年平均成長率2.6%で推移
- 2024年時点で約2.7兆円の市場規模



竹本容器について – 樹脂容器の市場規模 –

- 当社は化粧品・トイレタリー容器のスタンダードボトル市場におけるトップ企業
- ビスポークボトルを含めた市場全体でも3番手の位置付け



竹本容器について – 樹脂容器の製造工程 –

- ビスポークでもスタンダードでも、基本的には同じ工程を辿る
- いずれの工程も、蓄積した設計・製造の経験とノウハウ等を活用した工程間の連携や統合が求められる
 - 外部企業に委託する場合も同様で、深い信頼関係と密な連携が前提となる

要件把握・ 提案・要件定義

設計

金型製作

製造

印刷

- お客様のニーズ把握
 - 用途、容量、デザイン、色など
- ニーズを反映した容器の設計
- 容器製造の要となる金型を製作
- 製作した金型を用いて容器を製造
 - 同時に着色
- 製造した容器に文字やロゴなどを印刷

アイデア

容器

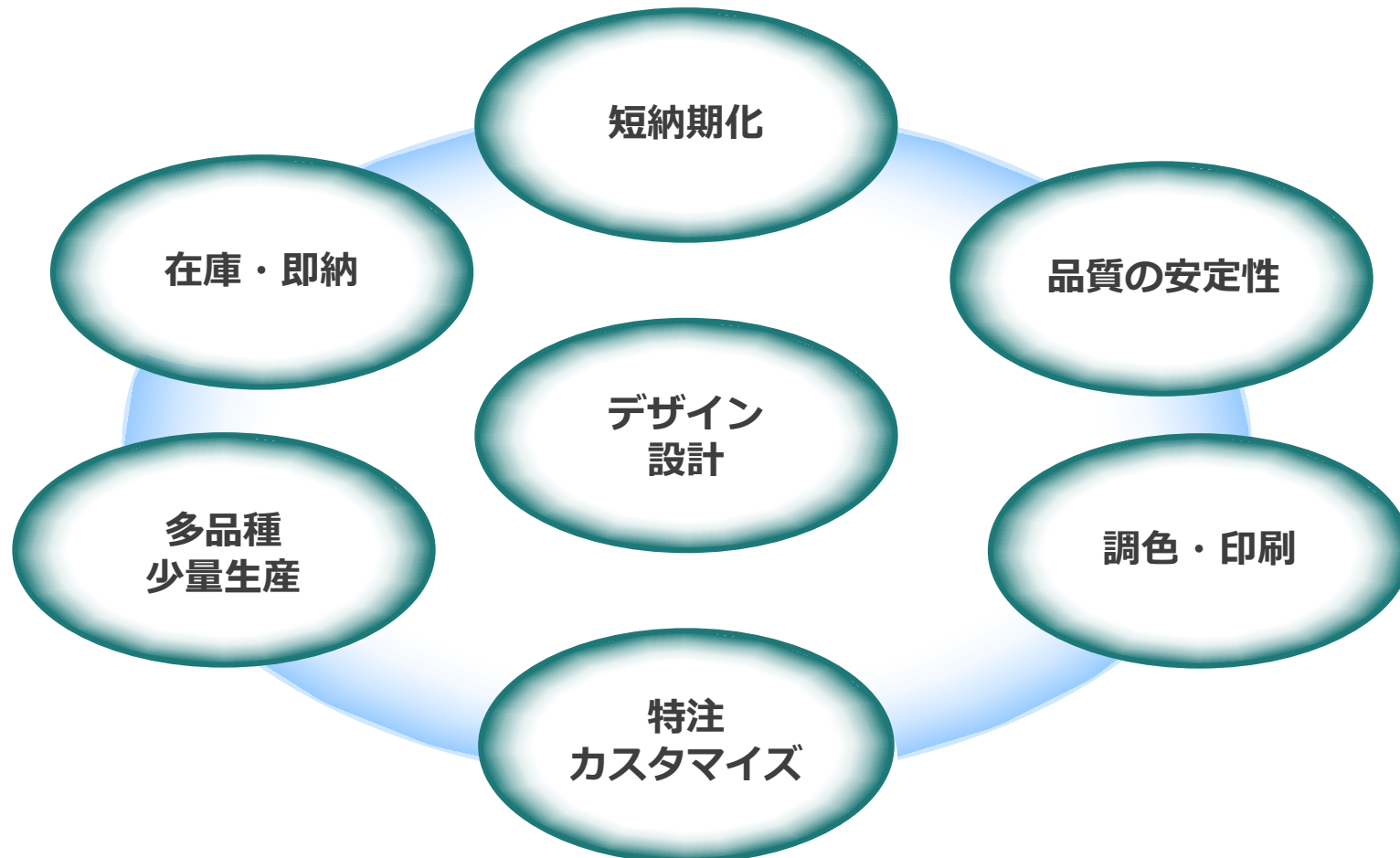
カスタマイズ

最終製品



竹本容器について – 樹脂容器製造の要諦 –

- 容器を提供する中で、顧客からは様々な要望が挙がる
- これらは容器製造の課題とも言え、メーカーにはこれらへの対応力が求められる



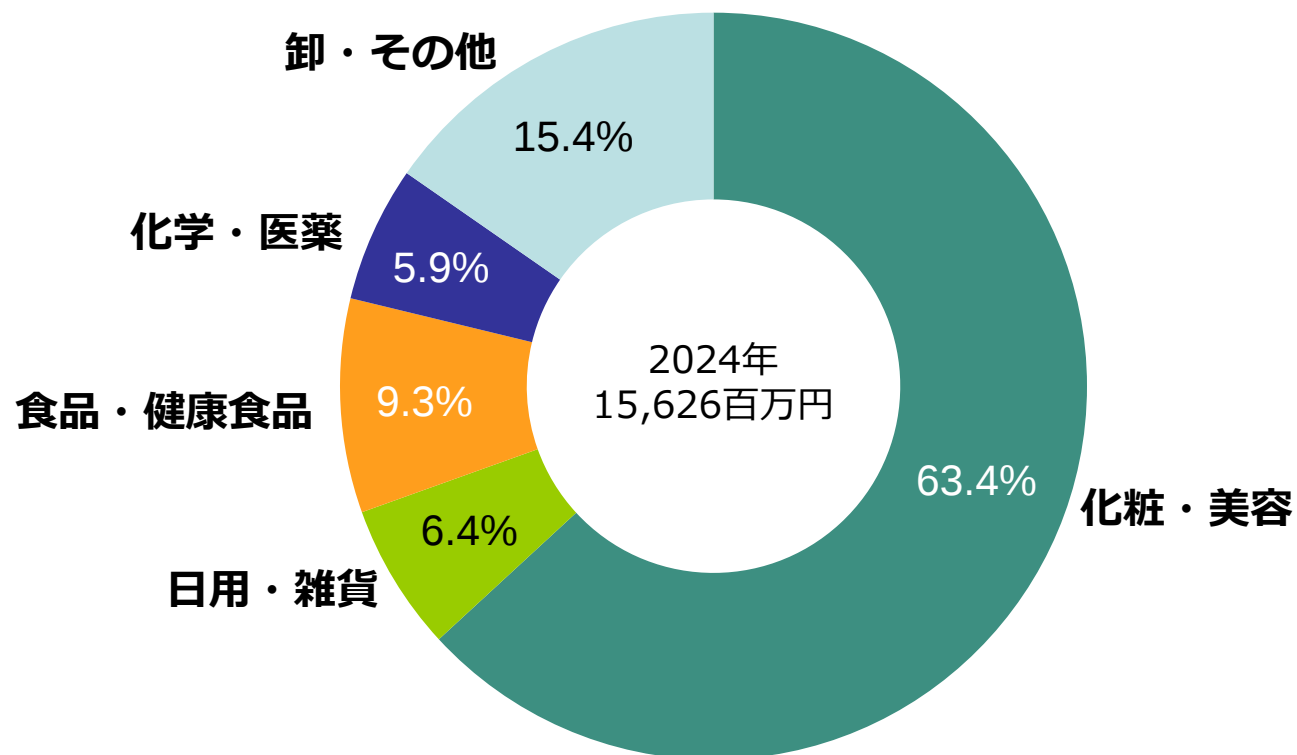
竹本容器について – 強み –

- 75年の経験を蓄積し、一貫体制を敷いてきたことによる強みが容器製造の課題を解決



竹本容器について – 用途別の売上構成 –

- 特に化粧・美容部門は10年間で5割の成長を遂げており、今後も更なる販売拡大を見込む



竹本容器について – 6つの数値 – (2024年12月31日時点)

■ 2030年のお客様社数「7,500社」、金型数「5,740型」、在庫製品種類「5,500製品」をKPIとしている

4,347社

【お客様社数】

化粧品、食品、日用雑貨等の事業者を主なお客様としており、世界中で4,347社（2024年度実績）ものお客様とお取引をさせて頂いております

4,063型

【自社金型数】

保有する金型の多さが、お客様の満足度向上に繋がるものと考えております。世界中で比類ない数の金型を保有しています
(※当社調べ)

2,547製品

【在庫製品数】

お客様に短納期での提供を可能とするため、日本、中国、オランダで多種多様な資源循環型パッケージング製品を在庫しています

75年

【創業】

1950年3月に創業しました。以来お客様のニーズにお応えすることで、信頼を積み重ねながら、現在に至っています

1,107名

【従業員・パート人数】

当社の経営の中心にあるのは「人財」です。1,107名全員が一丸となって、日々の業務に取り組んでいます

311台

【生産機械台数】

要望に応える、安定した品質を構築する、新しい課題にチャレンジするために、成形・押出・印刷など、多種多様な生産設備を有しています